

商標登録で
“企業防衛”

2025年は、国際協同組合年

「ライフスタイル医学と個別化医療」 第29回国際個別化医療学会学術集会より

昨年11月17日、(一社)国際個別化医療学会は、アーバンネット神田カンファレンス(東京都千代田区)に於いて同学術集会を開催した。テーマは「ライフスタイル医学と個別化医療ーライフスタイルゲノミクスはWell-beingをもたらすか」。同理事長・阿部博幸氏が開会挨拶で、同年4月1日にスタートした厚生労働省主導の健康日本21(第三次)に触れ、「性差や年齢、ライフステージに応じた健康増進への取り組みが重要であり、国の政策として位置付けられたことに意義がある」と強調した。続いて同会頭・阿部みな子氏(医療法人社団博心厚生会・副理事長)が挨拶と会頭講演を行い、超高齢社会の現代において、疾病だけでなく健康を維持することに焦点を



当てた医療モデルへのシフトが急務であり、「栄養、身体活動、ストレス管理、睡眠、有害物質の回避、社会的つながり」という6要素を核としてエビデンスに基づき実践する「ライフスタイル医学」の担う役割の重要性を説いた。また、ゲノム情報や病気の特徴などを考慮して個々人に最適な医療を提供する「個別化医療」との統合による「個別化ライフスタイル医学」の未来像を掲げ、健康や病気に対する遺伝子のコントロールを自らが握り、積極的に健康を守る行動変容の重要性とともに、社会全体に恩恵をもたらす予防医療の可能性を示唆した。

次いで米国ハーバード大学医学部准教授のエドワード・フィリップス氏による教育講演(収録)では、慢性疾患の予防と改善に患者が主体的にかかわる、患者主導のケアの重要性が語られた。中でも特に「what's the matter with you?」と「what matters to you?」というフレーズの視点は印象的であった。さらには、睡眠研究の柳沢正史氏(筑波大学・国際統合睡眠医科学研究機構・教授)、栄養とエピジェネティクス研究の佐藤憲子氏(日本女子大学・家政学部食物学科基礎栄養学・ゲノム医科学研究室・教授)、メタボリックドミノ研究の伊

藤裕氏(慶応義塾大学・予防医療センター・特任教授)ら著名な研究者による教育講演が行われ、熱心な質疑応答が繰り返された。

最終のプラクティカルセッションでは、「私はこうする」ー予防と治療の現場から」をテーマに、現在国内では、成人の8人に1人が糖尿病と推定される中で、「糖尿病クリニックにおける個別化医療」と題してさいしよ糖尿病クリニック院長の税所芳史氏が、「かかりつけ医のがん診療ー早期発見・早期治療を目指して」と題し西嶋医院院長の西嶋公子氏が、そして高齢者の認知症の中で代表的なアルツハイマー病については「アルツハイマー型認知症における近時記憶障害に対する陳皮・低用量メマンチン併用療法の有用性」と題して市川フォレストクリニック院長の松野晋太郎氏という医療現場の第一線で活躍中の医師が登壇し、治療の実際や課題などが提示され活発な議論が交わされた。



会頭 阿部みな子先生

緑の募金を活用した能登半島地震被災地の支援

「令和6年能登半島地震」は、能登半島を中心に甚大な被害をもたらしました。被災地域の皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

(公社)国土緑化推進機構では、これまで「緑の募金」復旧支援使途限定募金(地震被害)により、能登半島の避難所でのプライバシー保護や生活環境の改善等のため、石川県産材等を活用し組み立てた什器【組手什※】の提供や仮設住宅団地や復興商店街等への木製プランター・苗・木製テーブルベンチの提供、そして、能登町の森林体験施設の復旧支援などの事業を実施しています。

石川県能登町の森林体験施設「ケロン子ども森の学校」は、2014年の開設以来毎年、自然観察会や森の探検会、森の清掃や植樹活動等の自然体験や環境教育を実施し、子どもたちが能登半島の自然の豊かさや大切さを学び、体験する大切な役割を果たしてきました。

しかし、令和6年能登半島地震でガケ崩れや地割れ、倒木等の甚大な被害を受け、現在は活動を休止せざるを得ない状況に陥っています。一日も早く、子どもたちの森林体験活動を再開するため、私たちは、森に多数生じた地割れや亀裂等を子どもたち自身の手で、葉っぱや小

枝などの森の自然素材を活用して復旧活動に取り組むことにしました。

また、今後は公共施設や居住地域周辺の緑化、近隣の森林里山の復旧、コミュニティ再生や被災者同士の交流・健康・生きがい、子どもの遊び場づくり等にも寄与できる緑化活動等への支援を考えています。

さて、1月15日から「緑の募金」の春の募金期間(～5月31日)が始まりました。「緑の募金」は、個人及び団体から広くご寄附を募り、国内外で森林整備や緑化推進の活動を実施する市民ボランティア団体等の支援に活用するものです。

「緑の募金」のうち、特に、地震災害被災地の復旧・復興に向け緑化等を通じた支援をするため、被災地支援に使途を限定した「復旧支援使途限定募金(地震被害)」の受付を行い、被災地の要望に添った支援を実施することとしています。

これまでも、熊本地震や北海道胆振東部地震等の被災地の復旧支援に取り組んできましたが、令和6年能登半島地震につきましても、被災された方々の生活環境の向上・復旧等を目的としたボランティア活動を、長期的に支援していくこととしています。皆様からの温かいご協力をお願いします。



森の学校 ボランティアによる復旧活動



地割れ復旧作業

森の学校 復旧植樹



木製プランター等提供支援



組手什を使って棚を製作している様子

復旧支援使途限定募金(地震被害)の受付

緑の募金

検索



※【組手什(くでじゅう)とは】

長さ約2m×幅40mm×厚さ15mmの間伐材等に“組手(くで)”とよばれる溝加工が施されており、数本～数十本を組み合わせると収納棚など様々な用途で使用が可能です。主な特徴は、何でも作れる。誰でも作れる。何度でも使える。といったスグレものです。